

「安心・安全の国際文化 観光都市の実現へ」



京都市消防局長 杉本 栄一

京都市は、1200年を超える悠久の歴史に育まれた文化を有する「文化首都」として、世界遺産を始め有形・無形の文化財を数多く有し、山紫水明と称えられる美しい自然と調和しながら受け継がれ、市民の暮らしに息づいています。

京都市消防局では、昭和23年の自治体消防発足以来、文化財の防火・防災対策を最重要課題の一つに位置付け、数々の独自の施策に取り組んでまいりました。

そのような中で、昨年は、文化庁の京都への全面的移転が決定されました。

京都市では、これまで、文化財社寺関係者と地域住民が連携し災害時の初期対応を行う「文化財市民レスキュー体制」の構築や、観光ガイド等を対象に講習を実施し、緊急時は初期消火や避難誘導をしていただく「文化財防災マイスター」の養成、さらには、将来の文化財伝承の担い手となる子供たちが、防火について学んだり消防訓練を行う「文化財防火サマースクール」を開催するなど、独自の取組を推進しています。

この度、文化庁移転決定を受けて、京都が世界に誇る貴重な文化財を後世に引き継ぐため、火災を始めとするあらゆる災害から守り伝えていく決意を新たにしているところです。

今後も、これまで培ってきた文化財の防火・防災対策を継続、発展させ、掛け替えのない「文化財」を守る取組を進めてまいります。

一方、昨年7月に市内屈指の繁華街である先斗町で火災が発生し、全国的なニュースとして取り上げられました。

先斗町は、京町屋の飲食店が軒を連ねる京都らしい情緒ある街並みで、多くの観光客等にぎわう地域ですが、道路が狭あいだで木造建物が密集しているなど、防災面において課題があります。

そのため、火災発生後、速やかに地域団体と関係行政機関による「先斗町火災対策ネットワーク会議」を設置し、防火安全対策の強化について検討を行いました。

その結果、地域が主体となって先斗町の防火体制がより強化され、大規模な消防訓練も定期的実施されています。

このように、京都の歴史ある街並みを、地域の皆様と共に守る取組を今後も中断なく続けてまいります。

さて、京都市には、毎年5,500万人以上の観光客が訪れており、外国人を含めたこれら観光客の緊急時の対応も重要です。

京都市では、外国人の方が119番通報をされる時に5か国語で対応できる多言語通訳体制や、商店街、土産物店、コンビニエンスストア等を「安心救急ステーション」として登録し、近くで救急事案が発生した際に、素早い119番通報や応急手当を実施していただく体制を整えています。

また、多様化する救急事故や増加する救急需要への対応を一層強化するため、京都市立病院の敷地内に救急隊専用の消防出張所を開所し、救急隊を増隊するとともに、集団救急事故現場で応急救護の拠点となる「高度救急救護車」を配備しました。

集団救急事故が発生した場合には、市立病院の医師が同乗して災害現場へ出動する新たな体制も構築しています。

これからも京都の歴史を彩る文化や観光を、防火・防災の面から支え、社会情勢や時代背景にいち早く対応しながら、対策を講じることが、京都消防の責務であると認識し、あらゆる災害に的確果敢に立ち向かう「力強い消防」と、消防団や地域の皆様と共に全力で防火・防災に取り組む「地域密着型の消防」により、「安心・安全の国際文化観光都市」を目指してまいります。